

菅平の熱き夏の日

第41期 大和田克郎

ラグビー部ほど走りまわっていた運動部は、千歳高校の中になかったんじゃないか、そんな印象を持っています。

長野県菅平高原で行われた3年間の夏合宿、なかでも3年時の夏合宿は、自分の中では特に忘れ難い大切なものです。1年時の時の水谷監督は、僕らの間では理論肌の印象があり、三角パスやタックルの練習などをわかりやすく興味をもてるように教えていただいた記憶がありますが、2年時からの中込監督に教えていただくようになってからは、根性ラグビーという感じで、涼しい高原が一転して、練習後のやかんの水がとても冷たく感じるほどの暑い合宿となりました。

自分はいまだ恥ずかしさが残っているのですが、3年時の話をしようと思います。合宿後半の午後の練習で、一通りの練習が終ると、いつもなら10本程度の“どんだん”の練習がありました。この日は、それがいつまでたっても終らず、最初のうちこそ3年生ということもあり頑張っていたのですが、終わる気配が全くないことにバテしてしまったのか、頭のなかがもうろうとしてきたのです。1、2年に追い越されるのが悔しかったのですが、体は言うことを聞かず、最後の方は歩くようにみんなについていく程。参加していただいていた先輩の鈴木さんには、引っぱられ「走れ!走れ!一番にポイントに行け!」と怒鳴られた記憶があります。ラストの声がかかったのは覚えているのですが、頭の中はボーッとして、整理運動を終えた後、自分は倒れ、救急車のお世話になってしまいました。合宿

が終わり、2学期の始まる頃にはこの話は、他の部の奴らにも伝わっており、その度に「大和田、救急車!」とからかわれて恥ずかしい思いをしたものでした。でも、このことは、「ちょっとのことでは負けないぞ」と自分にいい聞かせるいい経験となり、青春時代の熱い思い出となっています。

(第 40 期 同期生からのことば)

卒業の時、後輩から「人生では、ノッコンばかりしないでくださいね」といわれたのが昨日のことのようです。なかなか取りこぼしのない生き方はできませんが、千歳高校を離れてもおお多くのラグビー部の方たちに勇気づけられることがあり、3年間は本当にみり豊かなものになっていると思っております。辛かった夏の練習も日差しも、今ではまぶしく楽しい思い出です。ありがとうございました。 菊池成夫

1996年も15回目の菅平に行ってきた。グラウンドは年々、土から芝に変わり、高校時代に合宿していた初音館もこぎれいになってラグビーショップもずいぶん増えた。まだまだ変わりゆく菅平をこれからもしばらく見続けていきたい。 矢葺考

こんなにラグビー続けるとは思ってみませんでした。高校1年の頃は。千歳高校、東京経済大学、そして今、サワガニ・ラグビーチームと、もう10年選手を超えている。仲間といえるのが楽しいし、ゲームはもちろん、ラグビーしつづけている自分が楽しい。高校の思い出……3年の最期の試合(対新宿高校)でのトライ。 新田恵一